

画期的なアタッチメント方式を導入 多様な材料での試験造形が容易に可能
金属 3D プリンタ用 試験造形対応ユニット「Material Trial Unit」

『第 20 回／2023 年“超”モノづくり部品大賞』「日本力（にっぽんぶらんど）賞」受賞

このたび、金属 3D プリンタ用 試験造形対応ユニット「Material Trial Unit」が、モノづくり日本会議／日刊工業新聞社主催の『第 20 回／2023 年超モノづくり部品大賞』において、「日本力（にっぽんぶらんど）賞」を受賞、12 月 13 日（水）に東京・大手町の経団連会館にて贈賞式が行われました。

同賞は、「縁の下の力持ち」的存在として日本のモノづくりの競争力向上や産業・社会の発展に貢献する優れた部品・部材を表彰するものです。「機械・ロボット」「電気・電子」「モビリティ関連」、「環境・資源・エネルギー関連」「健康福祉・バイオ・医療機器」「生活・社会課題ソリューション関連」の 6 分野において、毎年卓越した部品・部材が選出されています。

■受賞内容

対象製品：金属 3D プリンタ用 試験造形対応ユニット「Material Trial Unit」

受賞内容：『第 20 回／2023 年超モノづくり部品大賞』「日本力（にっぽんぶらんど）賞」



金属 3D プリンタ用 試験造形対応ユニット
「Material Trial Unit」



「2023 年“超”モノづくり部品大賞」贈賞式の様子

今回受賞した金属 3D プリンタ用試験造形対応ユニット「Material Trial Unit」は、画期的なアタッチメント方式を導入し、ユーザーが手軽に扱えるように設計。従来 2 日以上かかっていた煩雑な粉末材料交換から解放され、30 分での粉末交換が可能です。これにより 2 種類の材料で試験造形をする場合、前後の作業期間合計で 5 日間かかっていたものが 1 日で済むことになります。また、当社の機械での試験造形には通常 20 キログラムの材料が必要でしたが、Material Trial Unit を使用すれば約 5 キログラム程度と材料使用量の大幅削減による低コスト化が図れるとともに、試験後の廃棄物も大幅に減少します。

これらの特長により従来の材料交換における手間と時間と高額な費用の問題が解決、多様な材料での試験造形が容易になり、金属 3D プリンタにおけるものづくりの適応範囲が大幅に拡張されます。

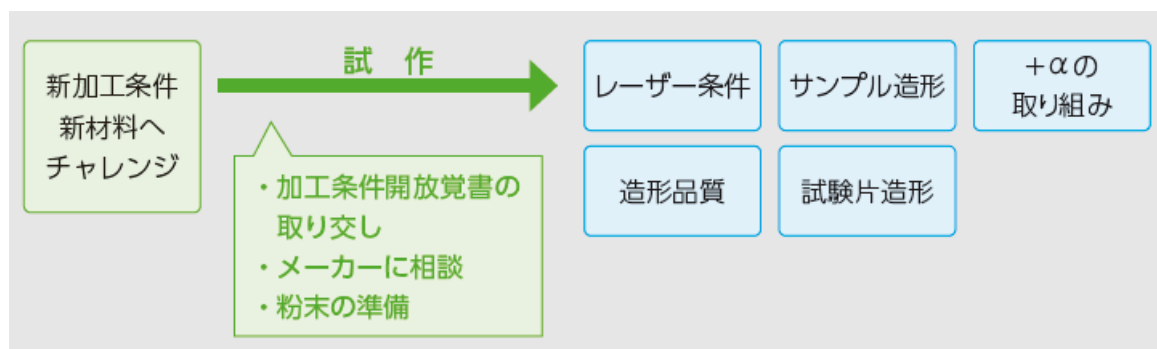
■ 「Material Trial Unit」の特長

① 1台のマシンで多種少量粉末の利用が可能

「Material Trial Unit」は、当社の金属3Dプリンタ「OPMシリーズ」及び「LPMシリーズ」向けに開発されたユニットです。簡単なアタッチメントを取り付けるだけで、様々な金属粉末の試験造形が可能になります。また、粉末供給が金属3Dプリンタ機内で完結出来るため、金属粉末交換時の粉末暴露など作業者への負担も大幅に軽減します。

② 新加工条件・新材料へのチャレンジ環境を簡便かつ低コストで実現

より良いものづくりの追求においては、製品ごとに品質や機能性を高めるため、新加工条件や新材料へのチャレンジが必要となります。「Material Trial Unit」を導入することで、品質や機能性向上を図る上で不可欠な試作品づくりにおいて、金属3Dプリンタの特長を最大限に引き出し柔軟に対応出来る環境を、簡便かつ低コストで実現します。



③ アタッチメント方式で取り付け、取り外し、清掃が容易

「Material Trial Unit」は、ユーザー自身が簡単に扱えるアタッチメント方式を採用しています。OPM機/LPM機の設置されている作業現場で、取り付け、取り外し、清掃などが容易に行えます。

※ 『超モノづくり部品大賞』

<https://award.cho-monodzukuri.jp/>

※ 「Material Trial Unit」の詳細は、以下をご参照願います。

https://www.sodick.co.jp/pdf/220714133119_20220713a_Release_MaterialTrialUnit.pdf

以上